　令和三年五月

漢詩鑑賞

【通釈】起句　四月(陰暦)の初夏の天候はすがすがしくやわらぎ､雨は

　　　　　　　さっとあがって晴れわたった。

　　　　承句　南にそびえる山は、家の真正面にはっきりと見える。

　　　　転句　もはや柳のわたが風に吹かれて乱れ飛ぶこともなく、

　　　　結句　ただ庭先のひまわりが、日に向かって花を傾けているのが

　　　　　　　あるばかりだ。

【語釈】　初夏　　夏のはじめ。陰暦四月。尚、詩題は｢客中初夏｣となっ

　　　　　　　　　ている本もある。

　　　　　淸和　　きよらかでやわらぐ意。

　　　　　　　　　陰暦四月、又四月一日の異称。又その時節の天候の形

　　　　　　　　　容。又、よく治まった世の形容に用いられる。

　　　　　乍　　　たちまち。急に。

　　　　　南山　　南に見える山。

　　　　　當戸　　家の正面に見えるま近なところに。

　　　　　轉　　　うたた。いよいよ。ますます。

　　　　　分明　　あきらか。はっきりと見える。明瞭。

　　　　　更無　　全然‥‥でない。更は無の意味を強める用法。

　　　　　柳絮　　柳のわた。柳の実が熟して種についている白毛が綿の

　　　　　　　　　ように飛び散るもの。晩春の風物。

　　　　　因風起　　風に吹かれて乱れ飛ぶ。

　　　　　葵花　　日まわりの花。

　　　　　　　　　日まわりの花は、常に日光の方に傾き向かうので、葵

　　　　　　　　　花向日(きかひにむかう)なる語が生まれた。忠誠の心で

　　　　　　　　　君主を仰ぎ慕うたとえに用いられる。

【押韻】　平声、庚韻。晴、明、傾。

【解説】　司馬光（一〇一九－一〇八六）字はは、北宋の政治家であり学者。二十歳で進士及第、累進して御史中丞となったが、王安石の新法に反対して官を辞して去り、洛陽に引きこもり、十五年間政治に関わらず、この間に史書「」二百九十四巻の大著を撰した。後再び政界に復帰し宰相となったが間もなく死亡し、太師温国公の称号を贈られた。

　　　　　この詩は洛陽引退中の作とされている。初夏のすがすがしい風景を詠じた美しい作品で作者の人柄を感じさせる。

　　　　　一方この詩には寓意がこめられているという様々な説がある。起句の淸和、結句の向日傾等の用法を見ると、私かに政治家司馬光自らの忠誠の心境を托した詩と見るのも、あながち見当違いではないのかも知れません。

以上